

## 酪農学園大学と北海道札幌東高等学校が高大連携協定を締結

本学は、北海道札幌東高等学校（札幌市白石区）と「高大連携に関する協定」を締結しました。協定調印式は3月6日（金）に本学で行われ、谷山弘行学長と古林由則校長が協定書に調印しました。

この連携協定は、（1）互いの教育活動に対する支援、（2）共同研究の実施、（3）既存施設・設備の利用等を目的とするものです。

本学はかねてから、教員等を同高校に派遣し「出張講義」を行ってきましたが、より充実した幅広い活動を目指して今回の協定を締結しました。今後、本協定に基づいた取り組みの一つとして、同高校定時制課程の「環境講座」科目において、同学部の教員が学生を引率して学生とともに授業を展開します。この科目を受講し所定の成績を習得した高校生徒には、修了証が交付されます。

谷山学長は「本学は、将来の世界を担う若者、農と食の後継者を養成する使命を持っている。今回の協定により、大学の中だけではできない取り組みに挑戦するなど、大きな流れを作っていきたい」と述べました。

矢吹哲夫 生命環境学科長は「環境講座」科目について「大学生が参加し、学生も授業を予習することや高校の生徒にわかりやすく説明することが求められる。教育実習とはまた違った教育の現場での得難い体験であり、この取り組みは大学にとっても、単に『GIVE』だけでなく、大いなる『TAKE』となる」と説明しました。

同高校の古林校長は「21世紀を担う世代の育成に、高大で協力していきたい」と述べ、

干場敏博教務部長（本学酪農学部酪農学科9期）は「大学の学生が授業を行うことによって、高校生生徒にとって遠いものだった環境問題を身近に感じることができるはず。従来の高校の授業から一歩踏み出せたとする。今後、講座の回数を増やしたり、高校の生徒を大学に連れていくことも考えている。また、対象を定時制だけでなく、全日制にも広げたい」と期待を込めました。